

館蔵企画展



後藤 芳仙《屋久島所見》紙本着色 二曲半双屏風(観音折) 制作年不詳

# 大 屏 風 展

2023年

4月15日(土) — 6月4日(日)

開館時間	午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日	毎週月曜日
観覧料	大人200円(160円)、小・中学生50円(40円)
主催・会場	青梅市立美術館

DaiByoubu Ten

青梅市立美術館  
青梅市立小島善太郎美術館  
Ome Municipal Museum Of Art

\* ( )内は20名以上の団体割引料金です。  
 \* 障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名(障害者手帳をご提示ください)、  
 青梅市内在住の65才以上の方(マイナンバーカード、運転免許証、健康保険証など  
 住所と生年月日のわかるものをお一人ずつご提示ください)は無料です。  
 \* 青梅市内の小・中学生は土・日・祝日無料です。  
 \* 青梅市吉川英治記念館との共通観覧券(大人600円、小人200円)を販売しています。



小山 大月《苗圃(春苑)》紙本着色 六曲一隻屏風 1931年



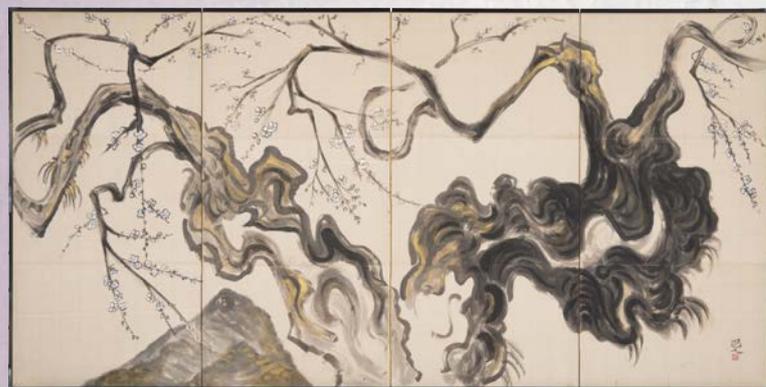
川合 玉堂《山水図》絹本金地墨画 二曲一雙屏風 明治中期

## 館蔵企画展 **大**屏風展

2023年4月15日(土) ▶ 6月4日(日)

「風を屏障<sup>へいしょう</sup>」するものを意味する屏風の起源は、中国古代にさかのぼります。風や人目を遮るための実用的な調度として制作と使用が始まりましたが、日本においては平安時代に芸術的方向に大いに発展し、大画面絵画を制作する際の表現形式として定着しました。しかし、住宅事情や生活様式の変化した現代では、屏風は用いられる機会が極端に減少し、それに伴ってこの形式で作品を制作する作家も減少しています。

さて、当館には17点の屏風が収蔵されており、本展では、その中から10点と、屏風よりもさらに大きなパネル形式の作品1点を展示します。スケール感は大型作品ならではのものですが、同時に各作品からは日本画特有の繊細さも感じられます。屏風という造形表現の面白さと豊かさをこの機会にご堪能ください。



岩崎 巴人《老梅樹(宝珠梅)》紙本墨画淡彩 四曲半双屏風 1970年



田中 以知庵《杜若(水精)》紙本墨画淡彩 二曲一雙屏風 1940年代後半



田中 案山子《晩秋》紙本着色 二曲一雙屏風 1936年

### 会期中のイベント

#### ● 学芸員によるギャラリーガイド

- 日時: 4月29日(土・祝)、5月21日(日) 午後2時開始(午後1時30分から受付)
- 定員: 10人(先着)
- 参加費: 無料(ただし要観覧券)

### ご来館・ご観覧について

- 発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合は、ご来館をご遠慮ください。
- ご来館に際しては、必ずマスクを着用し、入口での手指の消毒にご協力ください。
- 館内においては会話を控え、他の来館者との距離を最低1m(できるだけ2mを目安に)確保するようにお願いします。
- 来館後、新型コロナウイルスへの感染が確認された場合は、速やかに当館へご連絡ください。
- 館内での飲食や通話、施設敷地内での喫煙、また展示室内での撮影や携帯電話の使用はご遠慮ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、会期及び開館時間の変更やイベントの中止などが生じる場合があります。ご来館に当たっては、事前に当館ホームページなどで、開館状況をご確認ください。

## 青梅市立美術館 青梅市立小島善太郎美術館

JR青梅線青梅駅下車徒歩6分 東京都青梅市滝ノ上町1346-1

TEL 0428-24-1195 / FAX 0428-23-8229

WEB <https://www.city.ome.tokyo.jp/site/art-museum/>



美術館へはなるべく公共交通機関をご利用のうえ、ご来館ください。